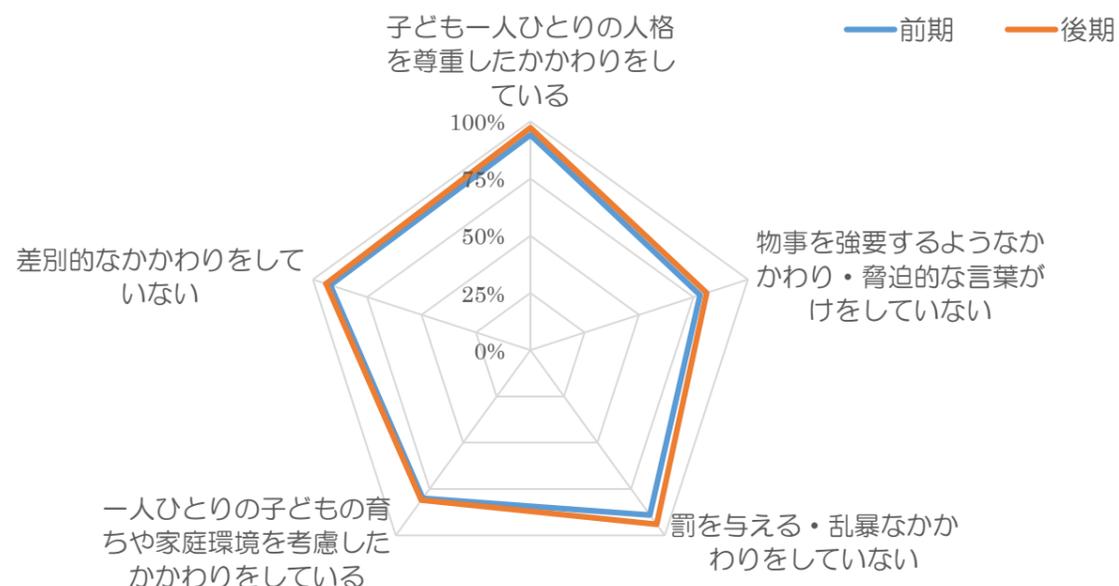
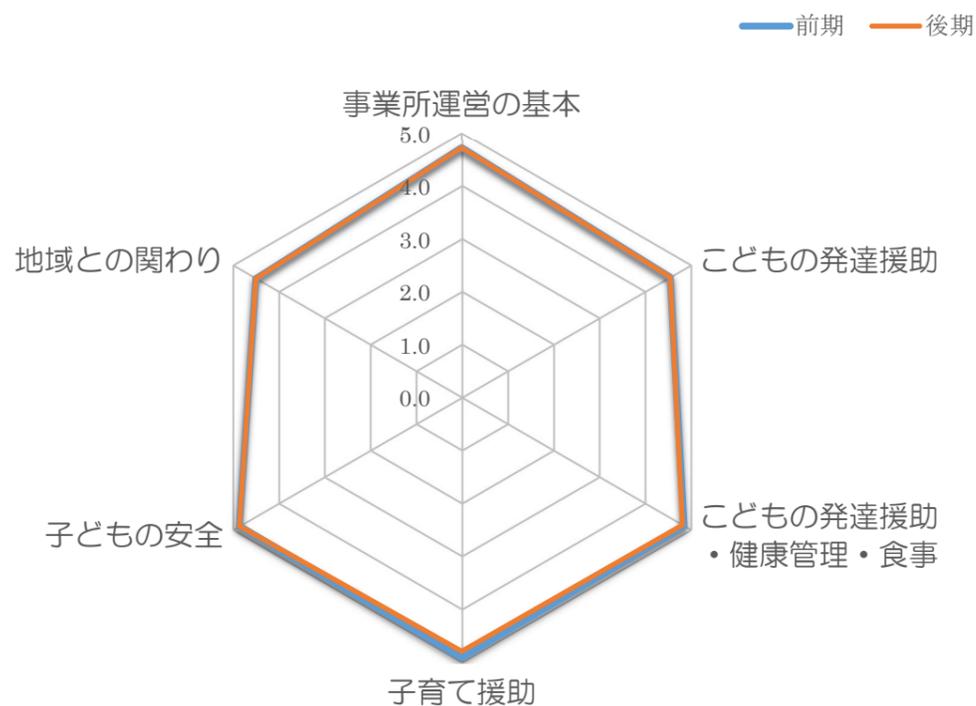


職員自己評価



園評価



総評

保育内容・方法

● コロナ禍の保育

新型コロナウイルスが5月8日より5類に移行し、マスクの着用や行事の規制などを少しずつ緩和することが出来た。また、コロナ禍を経たことで、子どもたちにとって本当に必要なことが何か職員間で話し合う時間を多く設けることが出来、コロナ禍が明けた今、コロナ禍以前より更に子どもたちに寄り添った内容の行事や保育内容になっていると感じる。

年少児の運動会ごっこや保育参加を通して、保護者参加型の行事にしたことで、保護者、子どもたち共に成長を喜ぶ良い機会になったと感じ、次年度の行事予定にも繋げていくこととなった。

● 職員の連携

全体での職員会議のほかに、各クラスで少人数でのミーティングを細かく設け、職員間での子どもへの理解をすり合わせしていった。その中で、時差出勤や短時間勤務なお、様々な就労形態の職員がいることにより情報を共有することが難しい場面があった。職員が自分の目で確認しやすくするため、立ち位置、保育内容、ねらいや情報伝達内容が確認できるようにホワイトボードを設置するなどの策を講じ、改善が見られた。

● 発達支援保育

発達支援リーダーを中心に、豊見城市の公認心理師の指導・助言を受けながら、発達支援保育をすすめていった。また、保護者との連携を密に図ることによって、個別の対応が必要な園児に対して、速やかに発達支援サービスの利用へと繋げることが出来たと感じた。また、園児が療育支援をスタートしたことで、保護者、保育園、療育支援、相談員など様々な角度から、支援の方法を模索することができた。専門機関との連携による発達支援保育への対応、保護者への対応を考えていくことにも繋がった。

地域の住民や関係機関等との連携

● 子育て支援

- ・ 小学校教育との接続・連携を円滑に進めるため、公認心理師による巡回相談を行い、園・保護者で子どもたちの育ちを支えることが出来た。
- ・ 思春期保健相談士の徳永桂子先生による講演会を行い、子どもたち、職員、保護者で性教育についての学びを深めることが出来たが、保護者の参加人数が少なかったため、沢山の保護者に学んでもらえるように次回の講演会の呼びかけに繋げていく。
- ・ 保育サポーター制度を導入し、卒園児の保護者による折り紙講座、在園児の保護者による演奏会、**平和学習の語り部や地域の方による絵本の読み聞かせ**など様々な交流を行うことが出来た。
- ・ 毎月第1水曜日の15時から16時までの間、聖マルコ教会を開放し、保護者対象の「子育て支援ルーム」をスタートした。少人数の中で子育ての悩みなど、ゆっくり話す場を設けることが出来た。

● 地域との関わり

地域の保幼こ小との情報交換を密に行い、連携の取れる体制を築いていった。また、久しぶりに地域のニュータウン祭りに参加し、4,5歳児が地域の方々や保護者に向けてお遊戯を披露したり、交流する場を設けることが出来た。今後も地域の子育てニーズに応えられるよう積極的に園庭開放及び地域の子育て支援を行っていきたい。

職員の処遇

事務作業の日を設けたり、指定休と年休を組み合わせた連休制度(フェス休暇)や、年休取得奨励日を設けるなどして、ワークライフバランスの充実に力を入れた。年次有給休暇の取得率は64%で、前年度分まで完全消化する職員となかなか取得しない職員との不公平感を改善していきたい。

評価年月日 令和6年3月29日

評価職員 20名

社会福祉法人 聖公会沖縄福祉会

聖マルコ保育園

園長 川満 すわ子